

やまがた創生便り

第13号
2019.7.16

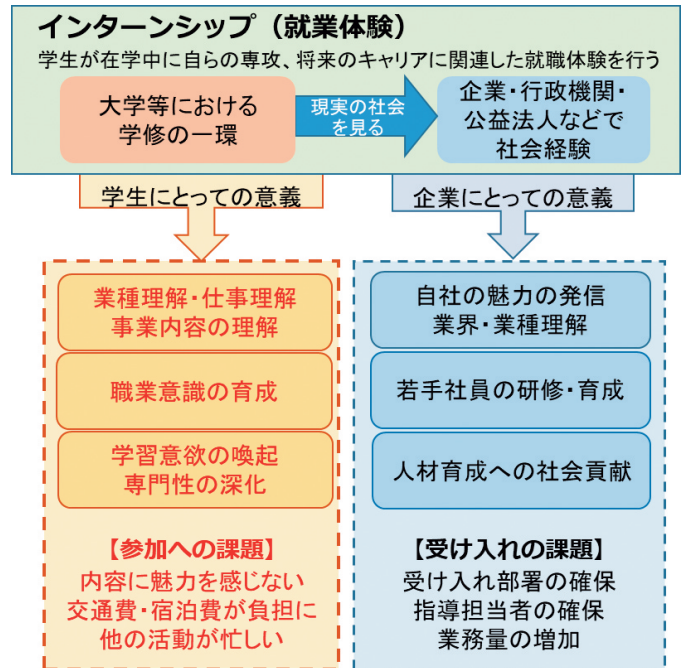
山形県内の高等教育機関は、文部科学省の「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」に取り組みながら、地域の将来を担い活躍する力を持った地域人材の育成と定着を目指しています。「やまがた創生便り」では各高等教育機関および連携自治体が実施している地方創生に関する取組を報告いたします。

特集 インターンシップ(就業体験、職業体験)

インターンシップは、学生が在学中に自らの専攻、将来のキャリアに関連した就職体験を行うことにより、職業観の醸成や職業の適性・将来設計を考える場です。県内の高等教育機関で学ぶ学生は、主に、夏休みや春休みなどの長期休業期間を利用して1~2週間のインターンシップを行い、単位を取得しています。学修へのつながりや気づきが重要である観点から、本号2面の記事のように大学1、2年生でのインターンシップも注目されています。一方、「1日インターンシップ」と称される会社説明会や職場案内のセミナーも採用活動・就職活動の一環として多く行われていますが、就業体験ではないので、単位は取得できません。

インターンシップは、学生にとっては、社会で働く人の姿を見ながら企業の魅力や働くことの現実を知り、企業にとっては、学生に自社の魅力を示すとともに、若手社員の研修の機会になることが期待できます。さらに、就業体験を通じて、県内企業の魅力を知り、就職に結びついていくことも重要です。

課題は、学生と企業の両者が満足でき、多くの学生が参加したくなるインターンシップの構築です。地域に根ざした地域の活性化を担う人材育成という観点からは、仕事の体験だけにとどまらず、企業が抱える課題を解決する挑戦型インターンシップの導入も必要です。学生が社員と共に考え、提案する場を設定することで、企業のことをより深く理解でき、近い存在になることで、企業理解と親密感を高められることとなります。また、トビタテ!留学JAPAN 地域人材コース「やまがたの未来を切り開くグローバル人材育成プログラム」では、海外での滞在費や渡航費が奨学金として支給され、県内での2週間のインターンシップの後、1~2か月間海外で、さらに、帰国後に2週間のインターンシップを行います。支援企業との縁で県内企業に目を向ける契機になるとともに、地域の課題にグローバルな視点で立ち向かう人材に育つことが期待されています。



2018年度 インターンシップ参加者数

教育機関	全参加人数(人)	山形県内で実施(人)
山形大学	300	208
山形県立米沢栄養大学	2*	0
鶴岡工業高等専門学校	138	24
東北公益文科大学	136	106
東北芸術工科大学	678*	109
東北文教大学	80	72
東北文教大学短期大学部	76	63
計	1410	582

*1日インターンシップへの参加を含む延べ人数

インターンシップ体験を通し、地元企業の魅力を知る

山形大学 学術研究院
(学士課程基盤教育機構)
山本美奈子・松坂暢浩

学生は、地域の中小企業や官公庁の社員（職員）の方に同行し、仕事に関するご指導を頂きます。また、インターンシップ先の複数の方に仕事のやりがいなどを伺うことを通し、働く意味について考えます。本取組みは5年目となり、履修学生は46名、受入れ企業は36社にのぼっています。2018年度に履修した学生のアンケート調査では、89.8%が参加前に比べ参加後は中小企業や官公庁のイメージが肯定的に変化したと回答していました。また、89.7%の学生が参加に満足していました。



文部科学省の大学等におけるインターンシップ表彰で「最優秀賞」(全国1位)を受賞

インターンシップの実習風景

インターンシップ体験 参加学生の声

インターンシップ体験を通して、学生達からは次のような感想がありました。

- インターンシップでは、初めての経験ばかりで3日間が毎日とても新鮮で仕事の大変さや働くことのやりがいを知ることができました。また、自分に足りないことを見つけ、将来について、もっと考えていかなければならないと感じることができました。
- 働くにあたって、ただ働くのではなく、働く意味を理解し、それに向かって自分は何をすればよいのかを考えることが大切であると学びました。

COC+連携自治体の取組

COC+連携自治体の地方創生や人材育成・定着に関わる取組を報告いたします。

西川町

西川町では、町民の雇用の確保、産業の振興、地域人材の育成また若者の町内定住促進を図るため、町内在住の新規学卒者に対し、町内事業所に就職した場合は10万円、町外事業所に就職した場合は3万円の奨励金を交付しており、平成26年度から30年度までに11人に交付しました。

また、新規学卒者の町民を雇用した事業所に対しても、1人の雇用につき10万円の奨励金を交付しており、平成26年度に1事業所に交付しました。

その他にも平成27年度から町内で新たに起業する方に対し、最大150万円の補助金を交付しており、これまで4件交付しました。

これらの事業については、町のお知らせや西村山管内の就職相談会などのイベントで制度の周知を行っています。

本町は人口の減少、特に若年人口の減少が年々進行しています。左記事業のさらなる周知を図りながら、若年層の町内定着率を上げる取り組みを推進していきたいと考えております。



地元の高校生で賑わう西村山管内の就職相談会

真室川町

真室川町では、もがみ地域理解プログラム(通称ジモト大学)を通じ、若者と地域住民の対話や協働による地域力の向上に取り組んでいます。

プログラムは役場若手職員が中心となって企画・運営を行っており、昨年度は、行政経営シミュレーション「SIM真室川2030」を開催し、6名の高校生に参加いただきました。

参加者は、自分が町役場の〇〇課長に就任したという設定のもと、役場職員らと共に地域課題の発見と課題解決に向けた政策形成に取り組まれました。プログラム終了後は「行政経営の難しさを学んだ」、「もっと事業や政策について勉強し

てみたい」などの感想が寄せられ、地域の未来について主体的に考えていただくよい機会になりました。

若者にとって地域で生きることが魅力的な選択肢の一つであるよう、今後も若者の地元定着のための環境整備と地域の将来を担う人材育成のためのプログラムを展開してまいります。



課題解決に向け協議する参加者

戸沢村

戸沢村ではフィールドワークという事業で、学生のコミュニケーション能力、プレゼン力、企画力を育むきっかけ作りを行っています。具体的には1泊2日で村の公民館や農家民宿に宿泊し、里山保全・伝承野菜栽培と郷土料理を地元の専門家の指導を受け体験したり、農作業のフィールドワーク、学生自身が戸沢村で感じたことや伝えたいこと等をコンセプトに「ホテル祭り」を企画運営したり、幅広く活動しています。地域においても学生を受け入れるために各団体が参加し、地域コミュニティの再生にも繋がっています。

この事業を通して戸沢村の住民と繋がり、フィールドワーク

後も戸沢村を訪れてくれる若者も多数おります。地域活性化、地元での進路選択の幅を広げることもできるプログラムになっていますので今後も活発な活動をしていきます。



フィールドワークで山菜を集める学生

【事業の連絡先】

山形大学 COC・COC+推進室(発行) TEL: 023-695-6264, 6266
山形県立米沢栄養大学総務企画課 TEL: 0238-22-7330
鶴岡工業高等専門学校総務課 TEL: 0235-25-9453
東北公益文科大学地域共創センター TEL: 0234-41-1115

E-mail: cocsuisin@jm.kj.yamagata-u.ac.jp
E-mail: jimuyone@yone.ac.jp
E-mail: kikaku@tsuruoka-nct.ac.jp
E-mail: coc-staff@koeki-u.ac.jp

東北芸術工科大学法人運営課 TEL: 023-627-2089
東北文教大学運営企画室 TEL: 023-688-2298
米沢市総合政策課 TEL: 0238-22-5111 (内:2810)
鶴岡市政策企画課 TEL: 0235-25-2111 (内:525)
長井市地域づくり推進課 TEL: 0238-87-0817
遊佐町企画課 TEL: 0234-72-4523

E-mail: c_o_c@aga.tuad.ac.jp
E-mail: soumu@t-bunkyo.ac.jp
E-mail: chiiki-t@city.yonezawa.yamagata.jp
E-mail: n-chiiki@city.nagai.yamagata.jp
E-mail: kikaku@town.yuza.lg.jp

COC+参加大学等の活動



春期CO-OP教育

鶴岡高専では、地元企業への就業体験学習であるCO-OP教育を春期と夏期に年2回実施しています。実習を通して優れた人材の

育成と地元就職の促進を目指しており、春期には県内企業5社へ6名の学生が参加しました。参加した学生からは、「実習先企業について深く知ることができ、仕事に対する考え方を学ぶ貴重な経験になった」などの感想が寄せられました。



CO-OP教育実習中の学生



コミュニティデザイン学科 大江町スタジオ

コミュニティデザイン学科では、2年生から1年半、地域に入り地域の方とともに活動する、

【スタジオ活動】という授業があります。大江町スタジオは、大江町まちなか交流館ATERAを拠点に、子育てママのやってみたいことを叶えられるようワークショップを行っています。今後も子育てママの自己実現と、町の活動人口増加を目指していきます。



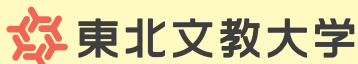
学生活動団体「Praxis」(プラクシス)

自分たちの“好き”“得意”を活かして地域づくりに取り組む学生団体です。鳥海山麓の酒田市日向(にっこう)地区における「長期学外

学修プログラム」履修者を中心に創設しました。地域での場づくり(学生カフェ運営)や、子ども対象の自然体験プログラム実施、動画や雑誌『Ethical』等の制作を通じた実践(praxis)をしています。



日向地区秋祭りでのカフェ出店



地域活動体験バスツアー

人間福祉学科2年生の卒業必須科目である「社会福祉実践演習」では、地域活動体験バスツアーを実施しています。このバスツアーは、山

形南部地区の高齢者のお宅を訪問する「在宅高齢者訪問活動」と地域の高齢者の方々を大学に招き交流する「ぶんきょうサロン」の充実を目指し、コミュニケーションに必要な地域の情報を得て理解を深めることを目的とした活動です。



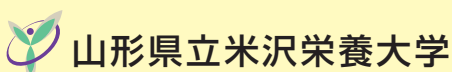
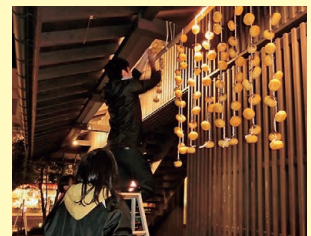
バスツアーで地域の神社を訪問した学生たち



体験型科目「地域のにぎわいづくり体験」

地域資源を活用して山形市・柏倉地区の活性化をはかる地域団体「柏倉にぎわいづくりネットワーク」が実施するイベントの運営に

参加しました。秋の“干柿まつり”と冬の“ほんぼりまつり”への参加を通じて、山形市の地域資源の魅力にふれるとともに、市民主導で実施される地域活性化策の素晴らしさを学びました。



県立病院での“学生コラボ・おいしい減塩メニュー”の提供と情報発信

学生が考案した「おいしい減塩メニュー」の給食を県立4病院(中央、新庄、河北、こころ

の医療センター)で年1回提供しています。提供当日は、学生が4病院に向き、厨房内での調理補助、患者様に食事の感想などを伺います。提供したメニューを、山形おすすめレシピとしてパンフレットを作成し紹介、ホームページで情報提供も行っています。

